



平井權八代記

四三

^ 13
3365
2



13
3365
2

平井権八一代記卷之三



情随院長之弟平井権八をうぐ

の事

大正十年八月廿九日
本大學出版部贈

實小を以て清弟とす情随院長之弟とす
者あり彼ら之弟所人たる世も毎度不
子と力ありあも福世くらも又別法なりと世に
人小利世一事とて命小ありともそ出みと
のこをいふを助強を相とすあんと人ぞん

たう梅道院長を侍七かきつゝ小体は我をり
しは梅八が極子をばりて見るとむく養男なり
と母をぬく英しき少年のなほ江戸のあまも二人
有梅は見えたるやう後一かゝ思人おれお養
年のかしとまき人福のいぬ事つたといふ梅をん
を子細有んたりし梅八をぬき母もをばり侍
りしはしきとひ来りたるあま梅八は江戸の江戸
をばりてしきぎりあまのいぬ事つたといふ梅をん
近以をの申しつゝ有案の大男を別かゝつてい

居たり梅八は不意に彼男のきこくまきありて
ふたふたたむく火をきこくわいむくまき世を
彼男をばりて火をきこくまきありて火打通
をばりていぬ彼男をばりて見ると元々養男の
取つてしき申しつゝあまのいぬ事つたといふ梅をん
養男小運をばりてしき梅八をばりて梅をん
かゝしき人なすつていぬ梅八をばりて梅をん
いぬ事つたといふあまのいぬ事つたといふ梅をん
とあまのいぬ事つたといふあまのいぬ事つたといふ

小田義孝のまゝめづるに佛を以て尊ぶるに
たつ四葉に戸をらつてこそ四葉一有るやと尋
る小指八葉事々に江戸の家の知る人こそらに世
なるをいひては子細有るのこそをいふなりけ
りありに江戸をいひて道法何れなるや小田義孝の事
なる事ごとくいひては小田義孝の事何れなるや
と尋るに江戸の事いひては江戸の事いひては
江戸の事いひては江戸の事いひては江戸の事
いひては江戸の事いひては江戸の事いひては江戸の事

小田義孝のまゝめづるに佛を以て尊ぶるに
たつ四葉に戸をらつてこそ四葉一有るやと尋
る小指八葉事々に江戸の家の知る人こそらに世
なるをいひては子細有るのこそをいふなりけ
りありに江戸をいひて道法何れなるや小田義孝の事
なる事ごとくいひては小田義孝の事何れなるや
と尋るに江戸の事いひては江戸の事いひては江戸の事
いひては江戸の事いひては江戸の事いひては江戸の事
いひては江戸の事いひては江戸の事いひては江戸の事



しと権を同たりして素あへぬし世人を中國
魁の隈へ元よりが極子あつて果方と極
わよりとよきものいぬらして権八をかきし
とて世

平井一代記巻の二終

平井一代記巻の四

権八長き流し見争の契約をせり事

平井の娘 権八小洲條の夏

形と権法院長き流し平井権八と家あふ
連向り女房も別合を御権八向しを許の
少郎の上をいへし御りあふと有者親
少や権八を西許して平屋物さまと許し
所へゆり妻御物知り世と長き流し中らる
私に法合中らるる少しも四糸をひたす大
船小のりしと早しめしと中ら世を権
八とひ小娘びりる其も権八端へ小腸母一男
を世といはしと長き流し見争ふ契約をせり

ていふことゝなるも、是れはさるゝ一たびひかへて
あはれたのひ義事、あつたかゝるを、活かせ
り、麻ふは、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
妻子のいふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
権八も、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
り、権八、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
出る、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
ち、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
り、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、

あゝと、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
と、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
よ、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
て、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
お、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
あ、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
か、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
や、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、
活、いふことゝなるも、いふことゝなるも、いふことゝなるも、

逢ふもなほ長き傍わき入込是らも然言ふなり
てはさへも下りての平井氏とて連きり候
とて堺所本所へ連行すは上野坊と寺
津川も坂下ありの神社佛園も余流をせり
國のわきありとありふと人達とて京へ
と日くくわと後さしみては江戸の廣をり
城小天下の沖藤えたりとありの島ひとあり
りうちとなるや九月十日も城へは世を
檀之清おのり下りて傍と連流き流とあり
て末の月見の道中りもありとありとあり

いそも人といはむは長き傍わき入込是らも然言ふなり
檀八とすは父世も元来好まりのたうり世も
あを流しと世ありとありとありとありとあり
て長大小徳下各等とて教を隠しとありとありとあり
風情とてありひとありとありとありとありとあり
親善の喜劇より田町へありとありとありとありとあり
坂大門はよみとありとありとありとありとありとあり
いそももたれひとありとありとありとありとありとあり

秋とくはた可部丁月新町の拾子と題せど
一河のさうしほしとわひほり人でもま
思きかき世たきく産生同のなを誠小鬼の
任家かよりるかかよなるまをまき香とわす
といは世とと母とまの世と長き宿持を清と都
思者まかす。一室とせ吸はきりしと腰うま
まより仲の所の草危の見世より道中とまを
侍持よりお合就心のハの浮不どなるぬり
弟は八文字天はん巴の各題もつと定家

赤陸小初瀬初を多と河とと小女市花白
きやハつ橋ハ守地たすと兜りかかや世をまそ
一夏ふ振り素る河りや梅き天人の河梅さる
りぬざん同さ川の世果とと志ど一秘めて有り
一木ふとらり下つと虎砂小下女下男と侍小
連くもちむりらの下志小と相とまのむのらち狐
同たの衣書長とととて人並小ぬりもせび
やらり。一朱竹素あるを孫ひの糸をらきそ
いの成天上人とはふらいうとて場らぎとと名本

日向世は東の治き勝十四代^{ちゅうしゅうげんが}と元々人^{もと}
 とすくく沙^さとんまをまゝの令^{たまひ}盛^{さか}るゝびるゝ
 似^に城^{しろ}の氏^{うぢ}神^{かみ}めいりり^い久^{ひさ}入^{いり}るを^をけ志^{こころざし}まの^ま開^{ひら}
 する瀧^{たき}底^{そこ}の^の達^{たつじん}入^い石^{いし}山^{さん}を^をな^な能^よて^て深^{かみ}氏^{うぢ}之^の十^{じゅう}代^{だい}
 と依^よ世^よ紫^{むらさき}式^{しき}部^ぶ九^く代^{だい}の後^ご胤^{いん}首^{くわだ}貫^{ぐん}は^は
 川の舟^{ふね}渡^{わたり}して小^こ紫^{むらさき}とせ世^よ君^{きみ}を^をり何^{なに}と^と赤^{あか}ら^ら
 おも^{おも}せよととむぢと法^{ほふ}とどや^やりる人^{ひと}とと^と看^{かん}
 首^{くわだ}尾^びを^をし叶^かひ^ひと^と人^{ひと}や^や年^{とし}十二^{じふに}交^まの^の大^{おほ}伎^ぎ師^し首^{くわだ}尾^び
 いたる^{いた}る^る一^{いつ}斗^と一^{いつ}葉^はを^をが^がよと^とと^とよと^とし^して^て叶^かひ^ひ

海^{うみ}一^{いつ}と^と世^よは^は一^{いつ}の^のよ^よと^とや^や世^よを^を意^い
 徒^{あか}き^きと^と心^{こころ}を^をあ^あと^とや^やよ^よと^と世^よは^は編^{あみ}
 笠^{かさ}の^のむ^むり^りて^て行^{ゆき}方^{かた}て^て行^{ゆき}る^るあ^あ小^こ小^こむ^むと^と世^よ
 と^とて^て是^{こゝ}の^の口^{くち}久^{ひさ}も^もや^や長^{なが}き^き人^{ひと}格^{かた}ら^ら人^{ひと}世^よ
 て^て世^よも^もや^や四^よ代^{だい}を^を勝^{かち}たら^らと^と進^{すす}み^みと^と一^{いつ}と^と進^{すす}
 せ^せり^りと^とた^たと^とた^たい^いお^お就^つき^きは^は三^{さん}勝^{かち}さん^{さん}と^とう^う
 いた^{いた}る^るあ^あ悪^{あく}と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^と一^{いつ}通^{とほ}世^よ
 格^{かた}を^を勝^{かち}た^たと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
 大^{おほ}事^{こと}の^の伎^ぎ師^し首^{くわだ}尾^びと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ

平井小舟^{ひらいぶね}の^ち交回舎^{まがわらひ}の^ちを^ま同^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
ふ^らの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
神^{かみ}の^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
し^らの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
花^{はな}の^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ
と^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ

此等^{この}の^ち物^{もの}は^ま通^{とほ}の^ちを^ま回^あ
た^まの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あの^ちを^ま回^あ

平井一代記巻の四終

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is arranged in several lines, starting from the top right and moving downwards. The ink is dark, and the paper shows signs of wear, including a small hole near the bottom center.

